

9月4日(水) 本年度第9回(通算2695回)

『職業奉仕講演会』

／担当/職業奉仕委員会

18時30分～釧路プリンスホテル

■ 来訪ロータリアン

- 国際ロータリー第2760地区 2008～09年度ガバナー 片山 主水君
国際ロータリー第2500地区 2013～14年度ガバナー 葎本 正美君
《釧路RC》 会長 吉田 英俊君、大津 久幸君、松並 弘宣君、山本 晋君
《釧路東RC》 会長 山田 敏昭君、幹事 山田 嘉保留君、佐々木 勉君、川上 登君、金澤 俊喜君
米谷 忠明君、中村 孝之君、門馬昌子君
《釧路南RC》 会長 佐藤 玄史君、幹事 佐藤 了君、長江 勉君、福井 克美君、木内 治彦君、
工藤 ゆかり君、上川原 昭君、菅原 一範君
《釧路ベイRC》 会長 成田 育夫君、幹事 春日 賢二君、石森 伸夫君、沢田 雅仁君、黒木 満君、
漆崎 隆君、伊藤 広樹君、池田 圭樹君、平野 正則君、渡辺 雅樹君、高橋 与志一君、
鈴木 敏夫君
《釧路北RAC》 会長 中村 理恵子君、幹事 畠山 優那君、安田浩佑君

■ 出席報告【会員総数66名 免除7名 出席計算に用いた会員数66名】

出席者 37名 本日の出席率 56%

■ ニコニコ献金

- ・小野寺 英夫君、足立 功一君、中嶋 嘉昭君……片山主水先生、本日はよろしくお願ひします
 - ・石井 東洋彦君、田村 憲一郎君……片山パストガバナー本日はようこそおいで下さいました
 - ・佐渡 正幸君、泰地 浩幸君、本間 弘人君……大澤君、工藤君、入会おめでとうございませう
- ※ 片山 主水先生より多額のニコニコを頂きました

■ 会長挨拶

《小野寺会長》



みなさんこんばんは。

7月と8月2回の会員増強フォーラムを通じまして今日、大澤恵介君と工藤健司君お二人の入会式を執り行うこととなりました。会員皆様の真摯な活動のたまものです。ほんとうにありがとうございました。今日は1年に一度の皆様が楽しみにしております「職業奉仕講演会」が片山主水パストガバナーを講師としてお迎えして開催されます。本日の講演会が、今日出席されている皆様にとって素晴らしい『ロータリーとふれ合うひととき』になることをお約束して挨拶いたします。

本日は釧路市内各ロータリークラブ、そしてローターアクトの皆様にご来訪いただきまして誠にありがとうございました。

私ども北ロータリークラブの『ロータリー講演会』は2009年から毎年行っており今回が5回目となります。

今回の講演会に名古屋東南RCより片山主水パストガバナーを講師としてお迎えできましたことに大変うれしく思い感謝申し上げます。

ロータリーにおいては倫理運動、そして職業奉仕ということが核心にあるといわれております。

本日の講演により皆様のロータリーに対してのご理解がより一層深まり、今夜の講演会が「ロータリーにふれ合う素晴らしいひととき」になることを期待しております。

最後になりますが片山主水パストガバナーそしてお集まりの皆様のご健勝とロータリークラブの発展をご祈念申し上げ、挨拶いたします。

■ 幹事報告

《佐渡幹事》



- ・浜中、根室、釧路ベイ、釧路南、釧路西、釧路東RCより9月のプログラムが届いておりますので、回覧いたします。
- ・9月のロータリーレートは、1ドル100円になっております。

新入会員紹介



工藤 健司君
くどう けんじ
(株) 鈴木設備工務店
代表取締役副社長



大澤 恵介君
おおさわ けいすけ
(有) おおさわプランニング
代表取締役



本日の講師、片山パストガバナーにロータリーバッジを付けて頂きました。

職業奉仕講演会



国際ロータリー第2760地区
2008～09年度ガバナー

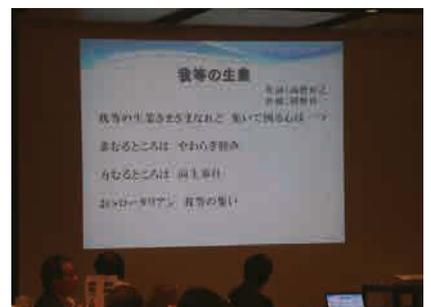
片山 主水君
(名古屋東南 RC)

ロータリー歴

1972年3月	名古屋東南 RC 入会
1984年度	クラブ幹事
1990年度～94年度	地区国際友好・WCS・環境保全各委員長
1995年度	クラブ会長
1997年度	地区幹事(犬飼ガバナー)
1998年度～05年度	地区資金・クラブ奉仕各委員長・国際博委員
2006年度	ガバナー補佐(西名古屋分区)
2008年度	ガバナー
2010年11月～	ロータリー日本財団監事

経歴

1964年	名古屋大学法学部卒業
1968年～	弁護士
1985年	名古屋弁護士会(現愛知県弁護士会)副会長
1988年～2010年	名古屋地方・簡易裁判所調停委員
1994年～2000年	愛知県公害審査会委員・会長
1999年～2001年	愛知県事業評価監視委員会委員・長
2001年～2010年	愛知県公務災害補償審査会会長



私の理解する職業奉仕 我流 職業奉仕論

この度は足立パストガバナーはじめ釧路北クラブの皆様のお招きにあずかりありがとうございます。足立PGは、同期のガバナーで一番の気鋭で優秀なガバナーで、先般もロータリーの友紙上で職業奉仕について司会者つき三者鼎談の折りに、ご卓説をお聞かせいただき大変勉強になりました。ありがとうございました。

今日は、職業奉仕の話ということですので、演題を「私の理解する職業奉仕」「我われ流りゅう 職業奉仕論」ということでお話しをさせていただきます。

皆さんは囚われの身。ちょっと譬えが適当ではありませんが、聞くのを止める自由が無い。そういう意味で、不幸な囚われの身。よーく、承知していますので、思いやりの心をもってお話ししますが、それでもどうか、ご辛抱のうえお付き合いをお願い申し上げます

- 1 それでは、ロータリーは今年度から改訳された「ロータリーの目的」では 職業奉仕についてどのように言っているかみてみましょう。
ご承知のように、職業奉仕に関係する部分で、次のように言っています。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

第1 (略)

第2 職業上の高い倫理規準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。

第3 ロータリアン一人一人が、個人としてまた事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること。

第4 (略)

いろいろ問題がありますが、一番重要なところは、本文第1文総論で、ロータリーの目的は、事業の基礎として奉仕の理念を奨励するにあるとして、ロータリーの目的は職業奉仕にあると言っているところです。

しかも、憲法ともいべき「ロータリーの目的」の冒頭で・・・。

ロータリーの奉仕活動の現状をみても、活動は職業奉仕活動のみではなく、むしろ社会奉仕活動の分野がロータリー財団の強力な側面からの支援により過半を占めるようになってきている状況において、これに眼を遣らず社会奉仕に言及しないという偏った内容では、ロータリーの目的の宣明として不十分というより誤りであり、広報の観点からいっても、真実に沿って、まず、ロータリーの一般的な属性を述べ、その後に特長を述べるのが賢明な説明であると思います。

勿論、これは英語原文の問題です。早急に改訂が必要です。

例えば、一案。

ロータリーの目的は、人間相互の関係を規律する奉仕の理想の理念を人生のあらゆる生活面において奨励し・・・

あるいは

ロータリーの目的は、奉仕の理論が職業及び人生における成功と幸福の真の基礎であることを経験則として体得するよう奨励し・・・

あるいは

ロータリーの目的は、人生のあらゆる面において奉仕の理想の理念 を奨励し・・・

いずれにしても、大局的な見地から、現行「ロータリーの目的」文は重大な問題だと思っています。次に、第2文各論の箇条書き文で、職業奉仕の具体的な内容について、職業上の高い倫理規準を保つこと、各自の職業を高潔なものにすることと言っています。

職業奉仕の重要な内容として職業の倫理規準の維持・向上、高潔性の保持が主題であることを正当に指摘しています。

ただ、後に触れますように、職業奉仕の重要な部分はこれだけではないのですから、結局、この部分も内容として不十分といわなければなりません。

2 それでは、職業奉仕とはどんなことをする奉仕活動なのでしょう。

幸いにして 大変な助っ人がいます。

「超我の奉仕」が社会奉仕一般の指導原理であると言われるとすれば、「最もよく奉仕する者 最も多く報いられる。」(最良奉仕の最多果報)

というシェルダンのロータリーの第2標語が職業奉仕の指導原理です。この「最良奉仕の最多果報」の中に職業奉仕のすべき内容が詰め込まれています。

奉仕の中にも、良い奉仕と通一遍の奉仕と他人に迷惑となるような奉仕と様々な奉仕があります。そのことを前提として認めたいので、

「最も良い奉仕をする者 最も多く報われる。」[下線部分は訂正]

最もいい奉仕をすれば 最も多くの利益を得るとというのが、蓋然性の高い経験則ですよ。だから、職業人よ、

最高にいい仕事をしよう。 きっと多くの最良の職業を遂行しよう。利益が得られるから。

というのが職業奉仕の中身です。(最良職業遂行説・最良奉仕論)

最良の奉仕、最良の職業の遂行というのは、

最良奉仕は最善努力の最上品質

最良の奉仕とは、最善の努力により最上の品質のサービスを最少の合理的な対価で提供することである。

これらは不断の努力により、現時点における最上の質と最少の価格として結実するものである。

対価はサービスの品質に相対的なものであり、品質には物理的ハード的な質と、精神的心理的ソフト的な質の物心両面にわたる質を含むものである。従って 職業奉仕とは、職業上において最善の努力により 最上の質のサービス・物を提供する最良の職業を遂行する一連の活動のことである。

以上のように、原材料の仕入れ・従業員の雇入れ等の準備段階からサービスを提供し利益を得、その利益を分配するまでの職業遂行の一連の過程のなかで、自分の職業上の技能・技術力を高め、提供する製品・サービスの品質(機能・安全性・美的性・賞味期限・栄養美味性・)・接客態度・職業倫理水準・合法性等を高める等最良の質の職業を遂行すること、そのことが職業奉仕です。

高度の倫理規準を維持し 倫理意識を高める倫理活動も、物心両面にわたる最良奉仕の重要な一部です。

最良のサービスの物心両面にわたる質をささえる技術技能・ノウハウ等および心理的倫理的感覚・対処の技術の研究、研鑽、指導等については、ロータリーはその唱導・奨励を重要な任務とし、現実の物理的品質の研究・技術技能の開発、心理的・倫理的感覚、対処方法の鍛練・研鑽については、ロータリアンみずからが日頃から精根を込めて打ち込むべきことです。

最良のサービスの提供の唱導・奨励の役割は、多様な職業人の集まりであるロータリーの本来的職分とするに最も相応しく、まさに天の配剂的職分であると思われます。しかし、物理的な品質に関する技術・技能等の現実的な研究・開発・指導については、事実上困難であれば、ロータリーよりそれらに当たるに相応しい機関に一步を譲ることは、知分知役、一向に差し支えないことのように思います。

3 以上の最良職業遂行説に関連して2・3点検、補充します。

・一つは、最良奉仕の最多果報により報われ得る利益とは何かということです。

この利益は間違いなく金銭的な利益ですが、職業奉仕は、その利益に誘導

された動機不純の奉仕のように思われ、誤解を招くことも懸念されますので、この標語がロータリーに入って100年が経った今、職業奉仕は無因性の最良奉仕であり、そうであれば、その利益と称するものは精神的な利益であるか、あるいは利益は後を慕って金銭の方から着いて来るもの(ロータリーの友2012年11月号10頁)と、ロータリー的に思いたいものです。

しかし、そうなりますと、ロータリーは職業奉仕だと職業奉仕を尊重し、社会奉仕と職業奉仕とを峻別し明確なメルクマールを残して置きたいと多くの日本ロータリアンが思っていますのに、段々とそれらが薄くなり、職業奉仕の指導原理の「最良奉仕の最多果報」が、それと異なる社会奉仕一般の「超我の奉仕」に埋没しかねませんし、指導原理の異なる職業奉仕が社会奉仕に混入しては奉仕体系が複雑になります。指導原理が異なるものとして職業奉仕には固有の指導原理と独自性を持たせた方がより理論的に整理された奉仕の体系になります。

・これに関連して「超我の奉仕」が字面からも判りますように、一方通行の奉仕であり、「最良奉仕の最多果報」が同様に最良奉仕を提供して最多の報酬を得るという双方向のギブアンドテイクの奉仕ですから、ロータリーは基本的には一つの人生の哲学であるという決議23-34の哲学は、社会奉仕においては、我一人の我利我欲、または一人の我を軸として、奉仕によって必然的に生じる金銭・労力・時間等の損失・負担の苦痛と、これらがあってもなお奉仕したいという欲求、あるいは奉仕しなければならないという義務の念、一人の我利我欲の内心におけるこれらの二つの感情・心理の葛藤の調整・緩和・解消という形で現われるのに対し、職業奉仕においては、彼我ひが二人の欲得を両軸として、彼の損失、ひいては社会の損失において自己が利得する彼我の利益の衝突の場における利益獲得・損失回避の欲求・苦痛、利益なく損失覚悟でもなお応ぜざるを得ないか、これら彼我二つの損得の感情・心理の葛藤の調整・緩和・解消という形で現われます。両者の葛藤と緩和の哲学は、質的に異なるものを持っているように思います。やはり職業奉仕と職業奉仕は峻別しておくべきものようです。

・職業奉仕を考えるうえにおいて、なぜロータリーが職業問題を取り上げたか。何を解決したかったのか。これも大切な視点です。

それは、次のような4つの理由からであり、職業自体の質の低下と商道德の荒廃を防ぎ、それらを更に改善し向上させ、不正・不祥事の発生を防止することが問題の焦点です。

- ・職業は 本来性悪 しょうわる説 危険危惧種
職業の現風景 自己の家族の生きる糧の獲得するために他の生き物の犠牲により生命を保つ
職業は利を得る目的で営まれるのであるから、必然的に他人の損失において自己の利益を得るという逃れ難い本質がある
職場は彼我の利益衝突の戦場の最前線であり、職業は職業自体の質と商道德が低下し易く、不正・不祥事が発生する危険が大きく、汚れ易い。
職業は本質的に危険危惧種である。
- ・職業は 人生の重大事一大事
職業はその成功不成功が自己および家族の人生の幸不幸に直接関係し、故にそれに割く質的量的また時間的エネルギーは人生において最大を占める一大事業である。
- ・職業は 社会と不即不離の社会性 職業即社会性帯有
職業という太いパイプあるいは広い窓をもって地域の経済・社会に直接参加・接触するという他にない社会性をもっている。
- ・職業は ロータリアンの毎日の関心事
ロータリーは職業人の集まりである。

この様な理由により職業をロータリーの課題として取り上げ職業奉仕をロータリーの目的の1つとしたのです

・職業奉仕を説明する場合に、職業奉仕は職業を通じてする社会奉仕であると言っていますが、それは、職業を営むその過程の中で従業員を雇用し原材料を買い入れ、地域に貢献するということのようなのです。

しかし、雇用や資材の調達・買入は自己の業務の準備のための必須の活動であって、特別、社会に貢献しよう初めから思っている活動ではなく、地域社会への貢献も多くは結果です。そのような結果貢献は社会奉仕とはいえません

同様に、職業によって社会に奉仕するということがありますが、職業は商品・サービスを社会に供給するという意味において元来大なり小なり社会への有用性を持っています。現に持続する職業であれば当然です。

しかしそれをもって、職業によって社会奉仕をしているとは同じく言えません。(極く稀に職業をもって社会に奉仕するということがあります。この場合は、職業奉仕でもあり社会奉仕でもあります。)

そしてまた、当たり前程度の職業の営みが職業奉仕であるというのでし

たら、ロータリーが特別に取り上げて、大きな声を張り上げて職業奉仕・職業奉仕と言う必要はない訳です。

ロータリーは職業奉仕だ、金看板だとか言うのですから、もう少し質の違う意味が含まれている筈です。
・顧客満足(度)、満足を売って信用を得るということが相当古くからロータリーにおいて聞くようになりましたが、最良奉仕論との関係を次のように思います。

ロータリーの職業奉仕の最良奉仕は、その職業を遂行しサービスを提供する者の側から物心両面にわたる質と気配り配慮の最良性をいうのに対し、経営学における顧客満足は、サービスの受けて手の物心両面にわたる満足の度合いの心情を提供側から推量して表現するもので、その言わんとするところは同じようですが、顧客満足という言葉の中身は最良奉仕の物心両面にわたる最良の品質性より、細大漏らさず言い尽くして総てを包含し、密度の濃いものを表現して最良奉仕論より精緻で前進しているように思えます。

その点は認めるにやぶさかではありませんが、しかし、最良奉仕論は主体的行為論(自己の行為の最良性を眼目とする)であるのに対し、顧客満足度論は客体的心情論(相手方の心情の反応を眼目とする)であり、最良奉仕論の方が視点と表現においてよりロータリー的であるように思えます。

・締め括りとして「三我の奉仕」についてお話しします。

ロータリーは奉仕を分けてクラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕等にしてはいますが、このうち、クラブ奉仕というのはクラブの 内に向かった活動で、ロータリーが鼓吹し奨励してロータリーの目的とする奉仕ではありませんから、これを除外し、奉仕の性質から分類しますと職業奉仕・社会奉仕になります。国際奉仕・青少年奉仕等は社会奉仕の一分野ですから、社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕等と並べて使用する社会奉仕は狭義の社会奉仕です。従って、ロータリーが目的とする奉仕には、職業奉仕と社会奉仕(広義の)二つの奉仕があることになります。

その社会奉仕は、「超我の奉仕」の精神をもってよばれる共助共生分かち合いの心、慈愛と感謝の心と助け合いの精神による専ら一人は社会のために、社会は一人のために尽くす奉仕です。物質的な見返りは度外視です。それ故に、一方的な「超我の奉仕」です。

もう一つの職業奉仕は、最良の職業を遂行することにより、社会にも結果的に利益になり、自己にも利益があると考える「最良奉仕の最多果報」の理論によるものです。

この「最良の職業の遂行」の「最良奉仕」の中で、職業人に技術的・倫理的研鑽・向上が求められ、職業に存在価値が生れ、職業人に自覚と矜持が生れ、職業に品位・品格が生れ、また、求められるようになるの訳です。社会への奉仕は結果的なものでそこに職業奉仕の目的がある訳ではありません。職業奉仕の目的の力点は物心両面の「最良の職業」の遂行にあります。対峙する一方の社会奉仕の社会への奉仕は結果ではなく目的そのものです。ここに職業奉仕と社会奉仕とに基本的な相違があります。

この職業奉仕は、一方的な「超我の奉仕」に対比すれば、「超我」でなく両利「調和の奉仕」であり、「我」を軸とすれば両利の「彼我の奉仕」ということができます。

昔から、修身 齐家 治国 平天下 と言います。

天下を治めるにもまず我が身の修養から始まるという君子の教えです。何事によらず、まず、当該事に当たる者の知育・徳育・体育、トータルとしての質的な人間向上、すなわち、教養修得・精神修養・人格陶冶から始まらなければ、あるいは共に進めなければならぬとする考え方です。

ロータリーでも、人間向上のことがなければなりません。このことが当然先に来なければならぬ筈です。

身を匡し身を清め、徳を積み身を修める。

社会奉仕もこの上にあり、職業奉仕もこの内にあります。

ロータリーは多種多様な職業と多種多様な才能を有し上質の素質を有する、素晴らしい人々の集団です。これ程の人の集団が身近にロータリーのほかにあるでしょうか。このことをまずロータリー自身が自覚しなければなりません。

そして、ロータリー自身がロータリアン自身が、「我のほか全て我が師」と謙虚に観ずることができたならば、ロータリーに優る有効な生涯教育の道場はありません。多くの先輩ロータリアンも、話をされる度毎に、会員自身の教養修得・精神修養・人格陶冶の人間向上がロータリーの第1の目的であることを、強調されてきています。

会員各自のロータリー入会の、また在会の理由の一つが自分自身の向上で

あることが、私もその一人ですが、アンケートなどによって会員の意思として示されているのですから、この点から言っても、ロータリーは素直にそれを受け止め、躊躇することなく、ロータリー自身の目的と認めていかなければならないと思います。

「超我の奉仕」・「彼我の奉仕」に対比し「我」を軸にこだわれば、人間向上は「唯我の奉仕」ということとなります。

こう名付けることによって、自利・他利の関係を、「我」を焦点にして観れば、「超我の奉仕」「彼我の奉仕」「唯我の奉仕」のように「三我の奉仕」として整合した形になります。

この三我の奉仕を図に書けば、横書きにすれば三枚下ろしの骨の部分に当り、縦書きにすれば三奉仕の真中になります。

職業奉仕は核心的な奉仕です。

4 長時間、纏まりの無い話に良くご辛抱いただきました。ご静聴を感謝します。

社会貢献 超我の奉仕	奉仕の理想	共助共生分かち合い
職業奉仕 彼我の奉仕		最良奉仕の最多果報
自己教育 唯我の奉仕		修身齐家治国平天下

横
図